

| | |
|-------------------------------------|----|
| ■ 市政執行方針 | 2 |
| ■ 平成18年度予算、市議会だより | 11 |
| ■ 介護保険からのお知らせ | 12 |
| ■ 国保の保険証更新方法が変わります・ 紋別市人事行政の運営状況 | 14 |
| ■ 健康ライフ | 16 |
| ■ 暮らしの情報箱 | 18 |
| ■ まちの出来事 | 26 |
| ■ みんなの芸術館 | 28 |

平成18年度

市政執行方針



3つの重点化方針

- ① 安心できる医療の確保
- ② 地場産業のブランド化
- ③ 交流人口の拡大

5つのまちづくり目標

- ① 産業が暮らしを支えるまち
- ② 健やかに安心して暮らせるまち
- ③ 交流ふれあいが広がるまち
- ④ 人を育み、学び合うまち
- ⑤ 分権時代にふさわしいまち



ふきのとう

雪解けが進み、春の訪れが感じられるようになりました。3月15日、花園町の日当たりのよい土手で、ふきのとうが枯草の中から顔を見せていました。

ふきのとうはフキの若い花茎。春の山菜の中でも1番最初に芽を出すことで知られています。独特の苦味と香りが特徴で、味噌汁やてんぷらなどに調理して春を味わう人が多いようです。



平成18年第1回紋別市議会定例会の開会にあたり、市政執行の基本方針と主要な施策について申し上げ、議員各位並びに市民の皆様のご理解とご協力を賜りたいと存じます。

私は、市民の皆さんの負託を受けて、紋別市長という重責を担わせていただいているから、早9か月が経とうとしております。

この間、医師不足に端を発した道立紋別病院の問題が大きく浮上し、市民に大きな医療不安を投げかけ、さらに道都大撤退後の人口減などから、まちなかの焦燥感は隠し切れず、市民は、その打開策を強く求めていると実感したところであります。私は、今こそ、市民の心をひとつ

にし、この紋別を、かつての元気で活力のあるまちに回復させること、そして、都市間競争に勝ち抜ける基盤をつくるのが私に課せられた使命であると認識いたしました。

さて、今日、我が国の発展を支えたしくみは、これまでの中央集権から地方分権への歴史的な変革により、国と地方の役割分担は、「上下・主従」の関係から「対等・協力」の関係に、そして自己責任・自己決定できる自立性の高い行政体に変革することを国も地方も願い、進められております。

しかしながら、地方交付税制度の見直しなど「三位一体の改革」は、真の地方の自主自立を促す戦略の一つでありましたが、改革が進むにつれ、その厳しさは増すばかりで、自主財源に乏しい地方にとっては、益々財政悪化を強いられ、これまでも増して行財政改革の断行や、広域行政、そして市町村合併への道を探らなければ自治体存続が難しいところまで追い込まれようとしております。

国や都市部だけが幾ら栄えたところで、地方が年々衰退していくようでは、日本の安定的・長期的な発展は望めないと私は思います。

地方の根がしっかりと張ってこそ、国という大きな幹が育ち、青々と葉を広げ、生い茂るのではないのでしょうか。

これからの日本社会は、本格的な人口減少時代に入り、地方は益々少子高齢化が進み、地域内での購買力が低下し、市場経済力が弱まることは避けられません。

このことから、地方は、如何に産業の生産力を高め、地域外に地場産品を出荷するか、また、どのように外から人を呼び込むか、そのことが、地方の市場経済力を高めることとなり、地方都市発展の大きなカギとなってくるものと私は考えております。

また、高度成長期のような右肩上がりの時代は終わりを告げ、地方のまちづくりにおいては、人口減少時代に合わせたコンパクトで暮らしやすい機能的なまちを創ることが必要になってまいります。

今日の紋別を見ると、人口は少子高齢化の影響により減少傾向にあります。紋別の基幹産業である漁業を中心とした農林水産業は、幾多の試練を乗り越え、今、産業の芽はしっかりと根付き、着実に生産するまちへと、その礎を築いてきております。

農林水産業からの大いなる恵みを、二次産業、三次産業が上手に受け止め、地場産業が好循環しながら私たちのまちを支えております。

私は、このまちに育ち、このまちをこよなく愛しております。今、紋別市は、多くの課題が山積

しておりますが、地場産業を基軸とするまちの発展の可能性は、まだまだ大きく広がります。

私は、紋別市民の代表として、常に先頭に立ち、市民の暮らしがより一層充実し、地場産業がさらに発展することを目指し、全力を傾注して確かなる紋別の明日を切り拓いてまいります。

そのために、私は、次の3点を重点化方針として取り組むとともに、5つのまちづくり目標を掲げ、積極的に政策展開し、市政発展のために邁進してまいります。

重点化方針 1 安心して医療の確保

紋別に暮らす子どもからお年寄りまで、生活する上で一番心配していることは「医療」です。平常時、緊急時を問わず、身近なところに安心できる総合病院があることが何より大切であり、そのことが「市民の暮らしの安心料」となります。

道立紋別病院は、コンパクトで機能的なまちづくりにとって必要不可欠な条件であるとともに、紋別市民にとって、なくてはならない医療機関でありますので、絶対確保に向け、全力を投入してまいります。